

技術部会
だより

市民のための技術

地味な努力を積み重ね 問題の解決を目指す

一級建築士 荻野廣己

今日ありがたいのは、パソコンによって文章を書き送信できること、そして建築士にとってはCADによって作図しまとめる技量も備わって、高齢ながらもなお前向きに取り組める姿勢が起こされることです。

それでも建築を業務とするからには、やはり建築現場においての実力が試されます。ちょうど今、技術部が都内マンションの大規模修繕問題に急遽取り組んでいます。築50年を超える9階建てのマンションの修繕工事が始まっていますが、とんでもない問題が発生しました。タイル貼り、業者はその浮きは全体の1%であると見て全体金額を算出し、その金額で管理組合と請負契約を締結しました。業者は足場を立てて実態を調査したらなんと貼り替えるべきタイルが20%もあるということです。契約金額より2億円跳ね上がった金額を提示してきました。

そこで私たちに相談があり調査することになりました。どれだけ浮いてどのような対処をするか、それによって工事金額を許容内に抑えられるか期待されます。4名の建築士がそれぞれの日程に当てがいながら現場調査に向かいます。タイルを一枚一枚叩いて音判断するので

予算の許容内で適正な方法を見出す

こんなこと、ちっとも先進的な技術なんかでな



タイルを一枚一枚たたいて音判断

いのにとまってしまいたいほどで、一日中足場において神経を尖らせるも退屈もする。叩いて音でモルタルが浮いているか、いやいやタイルがモルタルの上で浮いているか、それは貼り替えなければいけない状態なのか判定し、色別のテープをちぎって貼って行く。業者は仕事が激減するから機嫌が悪い。急遽明日現場に置いて、打音専門業の彼らに説明することになりました。一つの勝負どころです。

先進とは言えない地味な技術であっても、手元の問題をよく把握し、住民のために予算の範囲で適正な方法を見出し、合意点に結ぶことが技術です。学窓で、建築士は技術を学んだ市民となれ、と笑いながら教えてもらった授業のコマを大事にしています。

TEA TIME * 食べ物で一番硬い鰹節の深淵な世界



木南 脩 (建築ネット事務局次長)

私はサラリーマンを終えた時、趣味が高じて本格的な蕎麦教室に通いました。その教室で叩き込まれた蕎麦打ち技法とそばつゆ作りのうち、後者で得た知識の一端を披露します。

そばつゆは、だし汁(主に鰹節)と返し(しょう油、みりん、砂糖からなる)を組み合わせることで繊細で絶妙な味をだします。

主役となる鰹節の種類は、形状から雄節や雌節、亀節に分けられます。製造方法や製造期間によっても、なまり節や荒節、枯節、本枯節に分かれます。また、削り方にも厚削りや中厚削り、薄削り、粉碎などがあります。

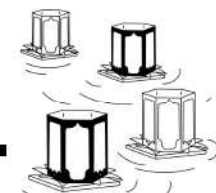
だし汁を作成するときは、温かい汁か冷たい汁かにより、これら3種類の割合を考慮して作ります。

ちなみに鰹節の次に硬い食べ物は干し肉、三

番手は干し鮑です。このように、硬くなるのは鰹節に附着させたカビに秘密があります。附着したカビは、鰹節の内部まで菌糸が伸び、その菌糸を通して水分が蒸発します。その作用を繰り返すことで内部を徹底的に乾燥させてしまうので、おそろべき硬さになるのです。



2023秋 主な行事が復活します



新型コロナの新規患者数は全国的には4月上旬以降、緩やかな増加傾向で、5類移行後も7週連続で増加が続いているということです。油断はできません。厚生労働省は「全国ではゆるやかな増加傾向が続いているほか沖縄県では第8波のピークを超える水準になっているため引き続き注視したい」としています。(7月前半)

研修バス旅行は10月9日、10日

3年余にわたって続いた新型コロナの感染拡大の間、建築ネットも逼塞を強いられ、多くの行事が取り止めとなりましたが、こころは諸活動が復活します。思い切って外に飛び出しましょう。恒例の一泊研修旅行の復活や、屋形船、秋の街

散歩などを予定しています。みなさん、建築ネットの秋の行事にふるってご参加ください。

恒例の一泊研修バス旅行は4年ぶり。今回は10月9日、10日、茨城県の穴場巡りを予定しています。毎回、めったにいけない、観光地図から漏れている“名所”に連れて行ってくれるバス旅行。“研修優先”は言っても、どんなところに連れていってくれるのか、楽しみです。ちなみに茨城県は2017年に続いて2回目です。

屋形船は美しい夜の東京湾を巡るクルージング。料理にカラオケに夜景観賞と楽しさ満載。3年間、客足が遠のき、いつも一艘貸切で行っていましたが、今年はどうなりますか。みなさんふるって参加してください。